



伝記を読もう



最近、伝記を読みましたか。

森 信三（もりのぶぞう：1896～1992）先生は、著書『修身教授録』（372 シ）のなかで、「人間は、一生のうちで、特に伝記を読まなければならない時期が、三度あると思う。第一は、12, 3 歳から 17, 8 歳の、立志の時期であり、第二は、34, 5 歳から 40 歳前後の、発願の時期、そして第三の時期は、60 歳前後で、自分の一生の締めくくりを如何にすべきか、を学ぶために、今一度先人の生き方について学ぶべき・・・」と述べています。

野口英世(1876～1928:福島県出身の医学者)の伝記を読みました。彼が梅毒スピロヘータを、精神病患者の脳の顕微鏡標本から発見した時の話です。

昼間は研究室で、二百枚の標本を一枚ずつ顕微鏡で調べていく。家に帰っても、夜通し顕微鏡をみる。そして、二百枚の標本のうちの、最後の一枚の中に、初めて梅毒の病原体を見つけたとき、彼は、嬉しさのあまり、カッポレを踊ったんです。

アメリカ人の奥さん(名前はメリー・ダージス)はそれを見て、「主人は、間違いになった」と心配されたと書いてあります。

物事の勝敗は、最後の数%で決まるんですね。諦めないことです。

【カッポレ】



「カッポレ」の源流は、

五穀豊穡を願った住吉踊り

【重要無形文化財】で、江戸末期に大道芸として流行した踊り。

五穀豊穡:穀物が豊かに実ること。

【五穀=米+麦+粟+きび+豆】

この夏、図書館で伝記を読んで、「酔生夢死」のような生き方から抜け出しましょう。



今月のワン・ポイント

「生きることは燃えることなり」

平澤 興(1900～1989:新潟県出身の医学者)

燃え方には、親鸞やミレーのように春の海のような燃え方もあれば、日蓮やベートーベンのように嵐のような燃え方もある。

人それぞれ燃え方は違っていいが、折角人間として生まれてきた以上、夢を持ちながら、それに向かってまっしぐらに燃えて生きたい。

自ら燃える人は、人を燃やす力がある。人生は、人に喜びを与えることが最高です。

